

# 沖縄県ヤングケアラー実態調査(児童生徒調査)

## 調査目的

本調査は、県内の児童生徒を対象としたアンケート調査を実施し、ヤングケアラーの早期発見と支援施策等の検討を行うための基礎資料とする

## 調査対象者

県内の国公私立学校の小学5年生から高校3年生の全ての児童生徒(特別支援学校等を含む) 136,065人

## 調査方法

各学校を通じて児童生徒向け、保護者向けの調査依頼文を配布し、児童生徒本人がWEBアンケートフォームにて回答筆記での回答を希望する児童生徒のために、別途、紙媒体の準備

## 調査期間

令和4年9月12日(月)～10月28日(金)

## 調査項目

国が令和2・3年度に実施したヤングケアラー関連調査の調査項目を基本としつつ、有識者検討会において、本県独自項目の追加等を行い、小学生(5・6年生)用調査票(28問)、中高生用調査票(30問)を作成

## 回収状況

回収率40.6% (=回収総数55,293/調査対象者数136,065人)(調査協力回答数47,180)

※調査協力回答数は、回収総数のうち調査協力意向で「はい」と回答した数(本調査の集計対象)

# ヤングケアラーと思われる子どもの人数(推定)

- 今回の調査結果を活用して沖縄県独自にヤングケアラーと思われる子どもの人数を推定した。
- 下記の条件設定に基づくと、「ヤングケアラーと思われる子ども」は小学5年生～高校3年生の児童生徒全体の5.5%(約7,450人)、その中でも家族の世話により日常生活に影響がでている「何らかの影響が出ていて、支援が急がれる子ども」は1.8%(約2,450人)と推定される。

ヤングケアラー定義 (厚労省ホームページ) ↓	<b>児童生徒 全体</b> (小学5年生～高校3年生) 100.0% (136,065人) ＜調査結果を用いた条件設定＞	
本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを	世話をしている家族が「いる」 不定期のもの、比較的軽微なお手伝いの範疇のもの等を含む	世話をしている家族が「いる」子ども 10.7% (約14,550人)
日常的に行っている子どものことで	家族の世話を ・「週3日以上」行っている、 又は、 ・「週2日以下」だが1日あたり3時間以上行っている	<b>ヤングケアラーと思われる子ども</b> 5.5% (約7,450人)
責任や負担の重さにより、学業や友人関係などに影響が出てしまうことがある	世話をしているためにやりたいけどできないことがある (1つ以上に該当)	うち、 <b>何らかの影響が出ていて、支援が急がれる子ども</b> 1.8% (約2,450人)

※1.上記の条件設定はあくまで調査結果に基づく推定による設定であり、支援の対象を限定するものではありません。

※2.推定数算出においては端数処理等を行っているため、児童生徒全体の人数に割合(%)を乗じた数値とは一致しません。

※3.今回の調査の対象は小学5年生～高校3年生であったため、上記の推定数も小学5年生～高校3年生の児童生徒に関する推定数となっています。

# 本当はやりたいこと、 できてますか？

親やきょうだいのお世話や家事をすることは大切なこと。  
それと同じくらい、やりたいことに挑戦したり、  
お友達と遊んだり、「子どもらしい」時間を過ごすことも大切なんだ。

あなたでも、お友達でも、  
ひとりでがんばりすぎちゃう「ヤングケアラー」かなと思ったら、  
学校の先生や周りの大人に話をしてみよう。



## ヤングケアラーとは、例えばこんな子どもたち。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話を代わりしている



日が経たない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のサポートをしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アンコール・家族・キャンプ・問題を抱える家族に、対応している



がん・認知・精神疾患など慢性的な病気のある家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

## 困った時はかけてみよう。

子ども支援  
あるい相談プラザ  
SORA(ソラ) 〒900-0001 沖縄県那覇市  
ソラ(ソラ) 〒900-0001 沖縄県那覇市

親子電話相談  
沖縄県教育庁  
生涯学習課 〒900-0001 沖縄県那覇市  
098-869-8753

沖縄県